

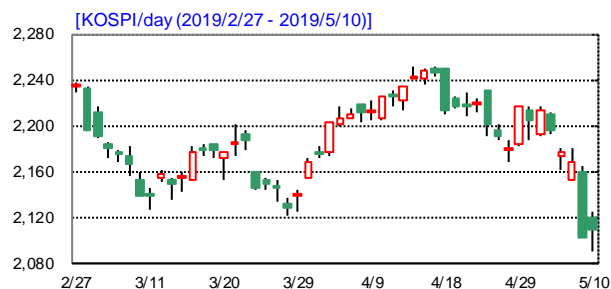


【韓国】 総合指数は週間で4.0%安と反落、今週は買い戻しも貿易問題が焦点か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で4.0%安と反落した。6日がこどもの日のため休場で、4日間の取引だった。相場は売り優勢で推移した。トランプ米大統領が5日に2000億米ドルの中国製品に課す追加関税を10日から25%に引き上げると表明したことを受け、米中貿易摩擦の激化に対する警戒感が再燃。7-9日は3日続落した。サムスン電子、SKハイニックスなど主力のハイテク株が下げを主導。9日に指数は3%を越す下落となり、約4カ月ぶり安値を付けた。10日は米中閣僚級協議の初日の会合が終わり、米政権が予定通りに対中追加関税を引き上げたものの、中国株式市場の上昇を好感して反発して終えた。今週は自律反発狙いの買いが入りやすいものの、引き続き米中貿易問題が焦点か。国内では貿易統計や雇用統計が発表される。

▼指数チャート

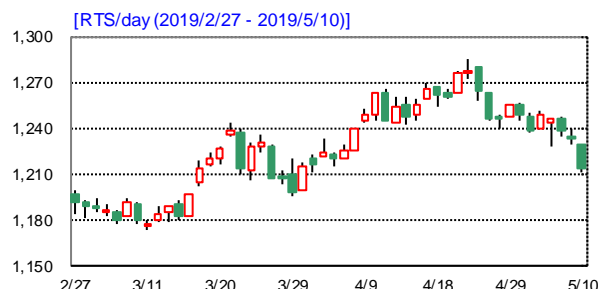


【ロシア】 RTS 指数は2.8%安と反落、今週は米中貿易問題をにらみ神経質な展開

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.8%安と反落。米中貿易摩擦の激化や資源需要縮小への警戒感が売りを誘い、指数は1カ月ぶりの安値を更新した。今月5日にトランプ米大統領が対中関税の引き上げを表明し、9日からの米中閣僚級通商協議で合意に至らず、10日に対中関税引き上げが実施された一連の経緯で投資家心理が悪化した。週初はイランをめぐる地政学的リスクの高まりを背景とする原油相場の上昇が株価の支えとなったが、その後に原油相場が失速して資源株が売られ、指数を押し下げた。指数は6日から5日続落し、10日には約1カ月ぶりの安値を更新した。個別銘柄では石油のルクオイル(3.0%安)、ロスネフチ(2.3%安)、天然ガスのガスプロム(1.6%安)などが重し。今週は米中貿易問題や原油相場をにらんだ神経質な展開か。

▼指数チャート

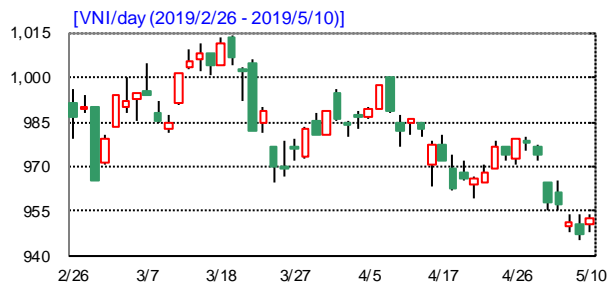


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.2%安と続落、今週は買い優勢の展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.2%安と続落。米中貿易戦争の激化懸念で売られ、指数は3カ月ぶりの安値を更新した。トランプ米大統領が今月5日に対中関税の引き上げを表明したことで米中貿易摩擦の激化懸念が再燃した。VN 指数は週明け6日に前営業日比で1.7%安。その後も米中貿易摩擦がもたらす景気悪化への警戒感で売り優勢の流れが続き、9日には約3カ月ぶりの安値を更新した。一方、10日は米国と中国が貿易協議を継続する中、合意の可能性に期待が広がったことで0.6%高と8日ぶりに反発し、下落幅をやや縮小して終了した。個別銘柄では、ビンホームズ(7.1%安)、ベトナム投資開発銀行(6.4%安)、ペトロベトナムガス(4.1%安)などの下落が指数を押し下げた。今週は米中貿易交渉の合意期待が高まれば、買い優勢の展開か。

▼指数チャート



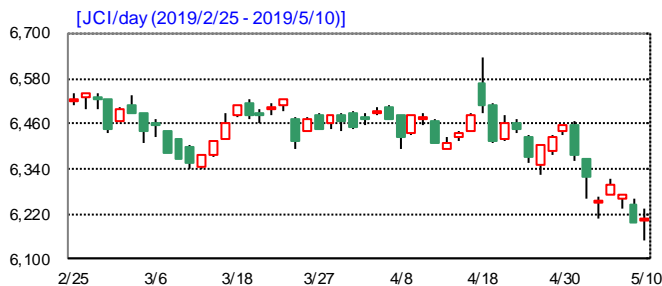


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.7%安、米中貿易摩擦の再燃で下落

ジャカルタ総合指数は週間で 1.7%安と 3 週続落。米中貿易摩擦の再燃が指数を押し下げた。週初の 6 日は、対中関税引き上げに関するトランプ米大統領の発言を受けて前営業日比 1.0%安と 3 日続落。一方、7 日は中国の劉鶴副首相が貿易協議のため予定通り 9 日から訪米する意向を表明したことで緊張緩和への期待感が高まり反発した。ただ、8 日に反落すると、9 日には終値で 6200 ポイントを割り込み、前日比 1.1%安と約 4 カ月ぶりの安値を更新。10 日は 3 日ぶりに反発して取引を終えている。今週は 15 日に 4 月の貿易統計が発表されるほか、16 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート

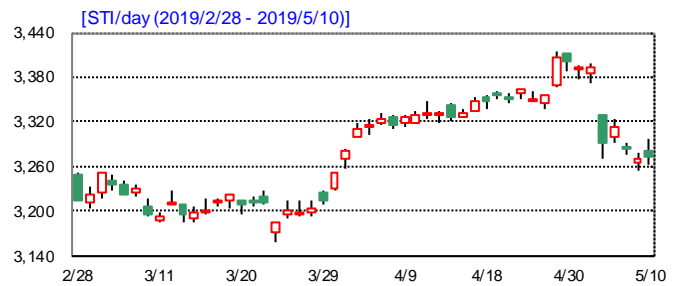


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スเตรツタイムズ指数は 3.5%安、今週は 4 月の非石油地場輸出に期待

スเตรツタイムズ指数は週間で 3.5%安と 9 週ぶりに反落。週初に大幅下落すると、その後も軟調な値動きが続いた。6 日は金融株を中心に幅広い銘柄が売られ、前営業日比 3.0%安と 4 日続落。7 日は反発し終値で 3300 ポイントを回復したが、8 日に再びこの水準を割り込むと 9 日も続落した。ただ、10 日は小幅に反発して引けている。同日に発表された 3 月の小売売上高は前年同月比 1.0%増と前年の水準を下回った前月からプラスに転じた。今週は 17 日に 4 月の非石油地場輸出が発表される予定。米中貿易協議後にトランプ米大統領が交渉継続に前向きな姿勢を示し、前週末の NY ダウが反発したことは好材料。

▼指数チャート

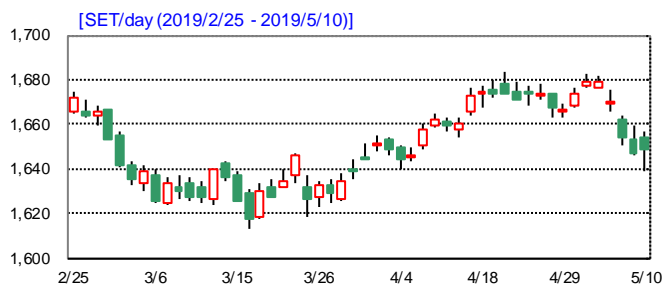


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.8%安、今週も米中貿易問題の行方が焦点か

SET 指数は 4 日間の取引で 1.8%安と反落。さえない値動きが続いた。連休明けの 7 日はドバイ原油スポット価格の下落を受けてエネルギー株が下げを主導。8 日は中国の 4 月の輸出額が市場予想から下振れた影響で売られた。同日に発表されたタイの政策金利は 1.75%に据え置かれている。指数は米中貿易協議の開始を目前に控えた 9 日も下げ止まらず 4 営業日続落したが、10 日は中国からの輸入品 2 千億ドル分の関税が 25%に引き上げられた一方、協議が 2 日目も継続されることが決まると、事態打開に対する期待感が高まり小幅反発して引けた。今週も引き続き米中の貿易問題を巡る動きが指数を左右する展開か。

▼指数チャート

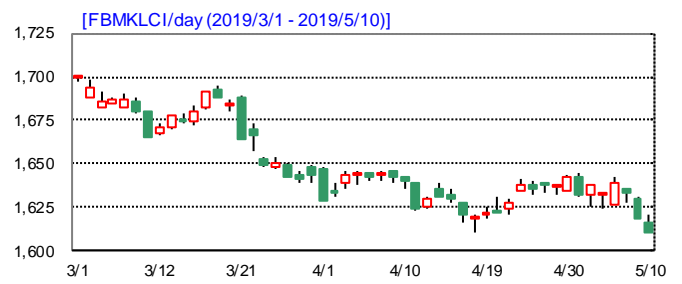


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.7%安、中央銀行が 3 年ぶりに利下げ決定

クアラルンプール総合指数は週間で 1.7%安と続落。3 年ぶりの利上げが好感されたが、効果は限定的だった。週初の 6 日は反落した一方、7 日は中央銀行が政策金利を市場予想通りに 3.25%から 3.00%に引き下げた動きに加え、通信のアシアタ・グループとデジ・ドット・コムとの合併計画で両社の株価が上昇し、指数は反発。ただ、8 日以降は米中貿易協議の泥沼化に対する警戒感からじりじりと下値を広げ、週末まで 3 日続落して取引を終えている。今週は 16 日に 1-3 月期の GDP が発表される予定。外部要因では米中関係の動向のほか、15 日に発表される中国の 4 月の固定資産投資や鉱工業生産も焦点になる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。